

雑学 鳥獣植物戯詩

第9回【詩仙堂の猪オドシ】

全24回

八木幹夫

秋篠寺訪問の2日後、私たち3人は京都の詩仙堂を訪ねた。灼熱の太陽に足取りは重く、坂道を登って着いた詩仙堂では緑陰にほっとした。石川丈山ゆかりの方丈の四壁にめぐらされた詩仙の漢詩。それを仰ぎ見ているうちに旅の後半の疲れで眠り込んでしまった。「ここは眠る場所ではありませんよ」優しく住職に起こされた。十名ほどの観光客が笑って見下ろしている。仰向けの私たちは一瞬所在が分からなかった。慌てて縁側の方へ身を移すと住職が説明を始めた。

寝起きの私たちは茫然と笕の水の動きを追った。満ちるたびに流れ落ち、竹筒がゴトンと石を打つ。そのたびに私たちが脅かされているようだった。観光客が引き払ったのか、住職は莫塵をかかえ「学生さん、前の庭に敷いてお休みなさい。」と言ってくれたが眠気は戻らなかった。「黒いタビラコのような鬚をはやした／男がこの庭を造ったのだゴトン／紫陽花のしげみから水車の女神が／石をたたいて猪を追う音がする。」（西脇順三郎『第三の神話』「猪」一部）現代詩人もこのお堂を造った丈山に敬意を表しその昔、一篇を献じていた。